当院で実施した肺癌症例対する Dual-Portal RATS と Non-Dual-Portal RATS の周術期成績の検討：当院における経験

松尾草明[1]，金内直樹[1]，渡辺光[2]
1　日本海総合病院　呼吸器外科
2　山形大学医学部第二外科　呼吸器外科グループ

背景: Dual-portal robot-assisted thoracoscopic surgery（DRATS）は、3〜4 cm 長の小開胸と 1.2〜1.5 cm 長のセカンドポートで行う術式である. 今回, 当院で行った DRATS と Non-DRATS (Robotic Port Layout-3，4)の成績を比較した.
方法: 2019 年から 2025 年にかけて行った肺葉切除 276 例（DRATS 85 例，Non-DRATS 191 例）および区域切除 63 例（DRATS 38 例，Non-DRATS 25 例）の周術期成績を後方視的に検討した。
結果: DRATS 群では Non-DRATS 群に比べて手術時間およびコンソール時間が有意に短かった（手術時間中央値：68 分 vs. 83 分、$p < 0.001$；コンソール時間中央値：46 分 vs. 71 分、$p < 0.001$）．一方で，手術中出血量，胸腔ドレーン留置期間，術後入院期間，術後合併症発生率に有意差を認めなかった．区域切除例では，DRATS 群と Non-DRATS 群間で周術期成績に有意差を認めなかった.
結論: DRATS は Non-DRATS と比べて，周術期成績において劣らず，安全かつ実行可能な術式である可能性が示唆される.